書棚からひっぱり出して、読んでみ

青年賦という有名な詩をもう一度

ある。……理想を失い、

自信を失く

はない。精神のはつらつを言うので 「青年とは、齢の若さを指すので

した時、

人は老いる。



第 19 号

# 神奈川浄青機関紙

北 賢

# 参加すること それが青年会

第九代神浄青会長

### 北 賢 雄

とでしょう。

至りました。 の老化現象に陥っている外見だけの 青年のための教えであることに思い 同時にこの青年賦が私のような精神 付いたのは、ごく最近のことです。 を失ったのはこの自分だったと気が した。ところが、青年のはつらつさ であってほしいと激励したつもりで 配の方々に、いつまでも青年のよう の詩を書いたことがありました。年 わが寺の写経会の便りにこ

力で全国に神浄青ありと示し続けた 邁な青年の理想と、その鮮列な実行 ぶれを思い浮べると、私は慚愧の念 に耐えません。約二十年に亘って高 あたってそうそうたる歴代会長の顔 この度、神浄青の会長を務めるに

発行日 1992年6月1日 発行人 私は将来に対して随分不安な気持ち えた、知らない青年僧侶同士が顔を る、参加することがすべてだと言っ いう組織は参加することに意義があ 申させて頂きます。それは青年会と すが、一つだけ会員諸氏にお願いを に陥っていなければならなかったこ もし浄青という仲間が無かったら、 てみれば何と幸せなことでしょう。 緒に仕事をすることができる。考え 合わせ言葉を交わし合い、さらに ても過言ではありません。年齢を越 これから二年の任期が始まる訳

失い、人生の目標を見失っています。 違いありません 済みのロケットが宇宙に漂うがごと 或いは刹那的になり、或いは快楽的 絶望を感じ、仏教が形骸化されるに ければ、檀家も世間も仏教に対して し私たちが確固とした指針を示さな になり、或いは孤独に耽ける。使用 今日、多くの日本人が心の支えを 同じところを回転している。も

皆さん衣を着て町へ出よう。 を作ってしまっている」と。 いのか、僧侶自らが社会に対して壁 は似合わない、何故、衣を着てこな 事を言われました。「あなたは背広 つい先日ある在家の青年にこんな さあ、

### 4年度神浄青 画

足跡をけがすことと覚悟しています。

9月30日 9月上旬 8月27~28日 7月29~31日 7月3日 7月3日 6月15日~16日 6月中旬 5月25日 4月25日 4月25日 (担当、 第22回全浄中央研修会「水戸屋」 花まつり愛のプレゼント 第20回関ブロ総会並びに研修会 高座組) 光明寺 開山忌前清掃奉仕 第10回ソフトボール大会 第3回理事会 光明寺 機関紙発行 仙台·秋保 教区夏期僧堂手伝い 群馬·聚楽 第2回理事会 第1回理事会 神浄青総会

10 10 月 月 10月10~11日 10月14日 十夜手伝い・十夜街頭伝道 (担当、三浦·小田原組 光明寺 光明寺 第4回理事会 十夜前清掃奉仕

2月下旬 1月25日 12月上旬 4月上旬 第18回全浄代表者研修会 第10回関ブロソフトボール大会 光明寺 光明寺 光明寺 海外研修旅行 第6回理事会 別時念仏会 第5回理事会

大本山増上寺開創600年慶賛法要 11 月 10 H

### 副会 事 事 会 平成四年度 会 局 計局長 成田國 斎

みを記す。京浜浄青の主要活動は研 ここでは京浜浄青主催による活動の

修会と子供修養会である。

研修会は、

址、ベナレスのガート見学をしてま 六大仏跡参拝、及びナーランダ大学 ジギール、祇園精舎の二つを加えた サルナートを加えた四大仏跡に、

ラ

を含めて振り返ると、その活動は四 浄青・関ブロ浄青・神浄青への参加

平成三年度京浜組浄青活動を、

全

京浜組だよ

ij

十行事、延べ五十一日間にも亙るが、

神浄青役員名簿

永 日 小 松 崎 川松田 光史喜

京浜

組常

任理

編編

員長

迎えし、それぞれ在家五重相伝会研

原組無量寺小島伸方上人を講師にお 人·港南組專念寺伊藤彰哲上人、小田 区教化団長鎌倉組専福寺成田光俊上 年六回行われるが、今年は神奈川教

法式研修会二回を厳修し研鑚に努め 修会二回·光明寺引声研修会二回· 監書

記

港北

組常

任理

事事

# 港北組だより

な力として期待を寄せている。

地域社会とのかかわりを重じる

もう一つ

の三上人を迎え、

活動充実への

陣川隆行上人、大徳寺加藤光成上人 度から三宝寺樋口芳宏上人、観音寺

三浦

組

常

任

理

事事事事事事事

鎌

倉

組常

任理

高

座

組

任

理

理 常 港

南

組

常

任

理

事事

中

郡

組

常

任

理

法要を中心に仏跡参拝をしてまいり ました。浄青会員では、大橋定敏、 日間、港北組内の二団体が涅槃会 去る二月九日より十九日までの十

小田

原

組常

任理

事

成道の地ブッダガヤ、初転法輪の地 らにこれに釈尊生誕の地ルンビニ、 名が参加しました。 石川 シナガラでの涅槃会法要が主で、 今回の仏跡旅行は二月十五 和弘、 柴田文彦、 平元正法  $\mathbb{H}$ 0 0 3 2 74

思います。 がありましたら、是非参加したいと ごさせました。またこのような機会 を修し、大変有意義なひとときを過 地では黒衣・如法衣を被着しご法要 拝ができたと思います。又、 毎日快晴で天候にも恵まれ、よい参 いりました。 二月のインドは乾季にあたるため 各仏跡

### 南組だより

員を陰で支える家族に感謝すべく家

**沽動の概略報告を終える。また本年** 族親睦会を催していることを付記し お念仏の教化を図った。尚、

日頃会

九回子供修養会を催し遊戯を通して 十余名の子供達を集め一泊二日で第 た。また良忠寺を会場にお借りし五

分けられます。 主な年間活動は、大きく二つに

習会があります。 研修会、宮入諦茂先生による税務講 教研修会、 ものです。 前者には、土屋光道先生による布 津田徳翁先生による法式

族親睦会があります。 して港北組とのスポー 実施、 歳末助け合い募金活動、 ッ交流及び家 そ

なんだということを知り、 にと思っています。 心に温かいものが残ってくれるよう 雰囲気の中で自分たちは、 回目となりますが、学校とは違っ これらの活動も諸先輩方が継続し 『少年少女帰敬会』は、今回 何か一 仏の子 0 供た 0 74

してゆきたいと思っています。 らの時代と共に発展させつつ、伝承 て下さったもので、私達は、これか

# 高座組だより

です。 とけこんで、仲間も増えてきたよう リエーションが主ですが、それらを 進めていく中で段々と浄青の活動に していこうという事から始めました。 を進めています。かつて会員が少 時期の話を伺い、先ずは仲間を増や く十分な活動が出来なかったという (輪) 作りということを目標に活 いろいろな活動、といってもレク 座組浄青では、 会員同士 0 な 動

らより多くの会員に参加していただ しれませんが、会員同士の和は着実 とした形としては残っていないかも 今後は各種勉強会も進めていきなが に作られつつあると感じてい が出ましたというものは、はっきり 今迄の活動の中にこれだけの成 ます。 果

会員の知識を高めるもの、 今年で十五周年を迎える港南浄青 一つは、勉強会及び研修会という

また後者には、『少年少女帰敬会』

ていきたいと思っております。
は務の他に仕事を持たれている方
をする活動を大切にして末長く続け
をする活動を大切にして末長く続け

# 鎌倉組だより

少しずつ明るいきざしが見えてきま 北は横浜から南は横須賀という盾長 行きます。お恥ずかしい事ですが、 を計画しています。 の法式研修会・三浦組との歳末たす 津田先生を講師にお招きし港南組と した。今年度の事業計画としては、 が多数顔を見せてくれる様になり、 かし、ここの所、第一部のメンバー 活動状況が少ないのが実情です。 の地域の為メンバーの統率が取れず のスタッフのもと今年一年を送って 会計渡部俊賢、 会長玉木弁生、副会長新原千春、 一泊の会員親睦旅行等 事務局冨田浩雅以上

を行ないます。を行ないます。と独身生活にピリオドを打ち、がやっと独身生活にピリオドを打ち、がやっと独身生活にピリオドを打ち、

以上、活動報告とさせて頂きます。な御慈悲の目で見守りください。 なの感じのないと言われている鎌

# 三浦組だより

本年五月一日、横須賀のとある料亭「太田屋」(仮称)、に於て三浦浄亭「太田屋」(仮称)、に於て三浦浄亭「太田屋」(仮称)、に於て三浦浄亭「太田屋」(仮称)、に於て三浦浄亭「太田屋」(仮称)、にとの方)で四名とOB(さらに年寄りの方)で四名とOB(さらに年寄りの方)で四名とOB(さらに年寄りの方)で四名と、いつもながら高出席率である。氏名・年齢不詳の女性四名もいた。正直言ってこだわる要素のない料亭であるが、何故かいつも此処になる。小松崎氏が「次期神浄青会長」にとの声が上がった時、会員一人一人が可能な限りの協力を誓い同氏を社行したのも此処であった。

るのであると私は思う。和合の上に活動している訳ではない。も事実である。ともあれ三浦組は、

話しは先の総会に戻るが、主たる、議題であった今年度の活動計画につなった。私はこんな三浦浄青がとてなった。私はこんな三浦浄青がとても好きだ。

# **中郡組だより**

特しています。
新会員の紹介から大念寺・小山英紹君、善徳寺・三荒喜道君、法然寺紹君、善徳寺・三荒喜道君、法然寺紹君、善徳寺・三荒喜道君、法然寺紹君、善徳寺・三荒喜道君、法然寺

愛子さんの結婚式も自坊にて、戒師寺斎藤匡念君・由美子さんの結婚式寺斎藤匡念君・由美子さんの結婚式が自坊にて、戒師北邨上人を、お迎が自坊にて、戒師北邨上人を、お迎が自坊にて、戒師北邨上人を、お迎

は増えてきましたが、まだまだ、ま けの手伝いと、当日脇役をして手伝 いをしました。今後の両君の活動に 一層の期待をいたします。 本年度は計画していたことが実行 本年度は計画していたことが実行

> ばよいのですが……。 来年度こそ会員の相互協力をえて

# 小田原組だより

である「自行」「化他」「和合」の三である「自行」「化他」「和合」の三本柱を基本とし、現役・OB共に分隔てなく活動を行っています。 隔でなく活動を行っています。 である「自行」「見・法要・布教」にのもと完成し「見・法要・の事でありました。 である「自行」「化他」「和合」の三である「自行」「化他」「和合」の三でありました。 である「自行」「化他」「和合」の三である「自行」「化他」「和合」の三である。

て来ています。
ここ近年では家族を交えての交流・

れしく感じております。

今年度はご存知の通り、組で神浄 青執行部をお引受し、県会長・組会 長を中心として会員相互に協力し合っ てゆく年となりました。組において す会長への応援をおしみなくしてゆ こうと考えております。各組会員の 皆様、OBにおかれましても、神浄 青へのご協力と、暖かいご支援をよ ろしくお願い申し上げます。

松蔭上人を、お迎えして行われまし

### 総会報告

邨新会長を選任し、無事終了した。五日、大本山光明寺で開催され、北平成四年度神浄青総会は四月二十

なる方向を模索する動きがあることろあるだろうし、組内部からも新たいる。これらについて評価はいろいない会員は皆応分の援助金を納めて

とまりが出来ていないのが残念です。

ると反省ばかり、 好きではないが、いざ振り返って見 いたします。 永原編集長より原稿の依頼を頂 『二年間を振り返って』という 振り返る事は、 身にせまる思いが あまり

脳裏に焼きついている。 理事長野呂上人の打ち はすばらしいものであっ 開催された中央研修会 員一丸となって横浜で あろう。神奈川浄青会 上げ式での涙が今でも た。それと共に関ブロ 番印象に残ったのは、やはり中研で おめでとうございま 浄青活動の多い中で、二年間で一 IJ

ている事。 写真が行方不明になっ のは、宮崎緑先生と共 に二人で撮って頂いた ただ一つ悔やまれる

年

間

振

旅行である。会員諸師 と名打ったハワイ研修 そして、他宗団見学

諸氏の暖かい励まし

0

ボケの関係か深く反省いたしており かいて寝てしまった事である。時差 村上人のお話の最中、 拝する事ができたが、ビショップ中 の多くの参加を得、ハワイ別院に参 小生いびきを

第三にやはり第三回帰敬式六十有

しだいです。 フ一同成功に終ったと確信している 長」の講話に会員諸師並びにスタッ さちや氏」「成田神奈川教区教化 余名の参加を得て、 講師には ひろ 団

ていくのが大変であります。その点 りに行事が多すぎ、一つ一つこなし 近ごろの浄青活動を見ますとあ 何もできず二年間過ご ŧ

会 長 松 崎 成 法 借りしまして深く感謝 じめ各理事上人、私の 様、そしてまとめ役の 事務局長、杉浦事務局 してまいりましたが、 申し上げると共にOB いました事を紙面をお に亘りおつき合い下さ ような者によく二年間 戸松、鳥居両幹事をは 長および編集局員の皆 吉水両会計、 スタッフの面々、北邨、 永原編集 高麗 國松

汳

成四年度より会長に就任されます、 を祈念しお礼の言葉とさせて頂きま 北邨上人を筆頭に益々神浄青の活躍 お言葉を頂戴致し、 亚.

明瞭であったため迷った人がいたこ

### 神浄青 ソフトボー ル大会

平成3年10月2日) H 比 降 道

高座組、 後一時すぎ会長の挨拶後試合開始。 がつづき過去二年にわたり雨のため を過ごし解散しました。 賞の発表をし、終始なごやかな 試合終了後懇親会場にて優勝杯・各 ました。参加人数は三十八人でした。 試合を行い、鎌倉・三浦組が優勝し 郡組の4チームに分けリーグ戦で4 最初の組分は京浜・港北組、 て何とか試合の出来る状態になり午 ぬかるみがありましたが、砂をいれ め中止にしたくない思いでした。 ブロック大会の選抜をかねているた で開催されました。今年も天候不 大会は十月二日平塚市営新町野球場 担当組としては反省点は会場が不 止になっていたため今年こそ関東 前日も雨が降りグランドの一部に 第九回神奈川教区杯ソフトボ 鎌倉·三浦組、 小田原・中 港南・ 1 順

### 别 時 念

仏

(平成4年1月25日)

田

道

から。 れた。 で称名に専念することができたのだ だなどと言わないでほしい。 ていた)暖房器を持込むとは不謹慎 かかった。(何とストーブが焚か していたのだが、今年は大変あたた い衣の下になにかしら着込んで出 大寒を迎えたばかりの一月二十 神浄青主催の別時念仏会が行 毎年寒さが厳しいのでたい おかげ れ T

別時ノ、念仏ヲ修スベキナリ。」と イラト、 タク、目ナレ、耳ナレヌレバ、イラ ソノ心ヲ、ススメンタメニハ、時々 は、法然上人の「人ノ心ザマハ、 けきらない身にとってこの別時念仏 もに称えると、励まされ心身がとと 帰郷し帰処させるいい機会であった。 申されているように浮世に遊ぶ心を 七草がゆの効用もなく正月気分が抜 多くの人の唱える念仏を聞き、 この時期は新年会や互礼会やらで ススム心スクナク、(中略)、 1



のわれて行くようで悦ばしかった。

加された会員にお詫びいたします。 等々怠慢なところがあったことを参 とでホームベースしかなかったこと と、会場設備の確認をしなかったこ

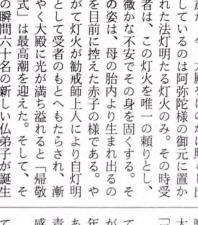
### 第 П 帰 敬

ひるっても、や男生

### 或 松 俊 康

静寂が支配する暗闇の光明寺大殿。 母の胎内より生まれ出るの 大殿をほのかに照らし出 その時受

粛だ。 として受者のもとへもたらされ、 がて灯火が勧戒師上人により自灯明 を目前に控えた赤子の様である。 の姿は、 そのたたずまいはいつにも増して厳 の瞬間六十名の新しい仏弟子が誕生 式」は最高潮を迎えた。そして、そ やく大殿に光が満ち溢れると「帰敬 微かな不安でその身を固くする。 者は、この灯火を唯一の頼りとし、 れた法灯明たる灯火のみ。 しているのは阿弥陀様の御元に置か



晩秋の柔らかな陽光が降り注ぐ鎌倉 した。 大本山光明寺に於いて神浄青第三回 帰敬会」が開催された。 平成三年十一月二十三日

美

感さえある。 あって、「帰敬会」はすっかり神浄 年ごとに開催され、 が昭和六十三年二月のこと。以来隔 青の「専売特許」となってしまった て初めて「帰敬会」が開催されたの 青年の集い」構想が発端となっ 今回が三回目と

て宗教評論家ひろさちゃ先生、 今回の「帰敬会」には、 講師とし また



アンロ

講師、 でお話をして頂いた。 づれも「浄土へのあこがれ」 団々長成田光俊上人をお招きし、 勧戒師として神奈川教区教化 の講題

りて感謝申し上げる次第である。 前述のように約六十数名 苦労させられるが、今回最終的には びであり、 者として、 お陰でスムーズに進めることが出来 裕をもって献身的に対処してくれた 於いても「過去二回の実績」 の受講者が集まった。また運営面に た関係各位に対しては、この場を借 の成満を迎え得たことは、 た。 を言ったのか、神浄青会員諸師が余 周知の通り「帰敬会」はあくまで 毎度のことだが、受講者集めに 微力ながら今回運営に携わった 盛会裡に第三回 一方ならぬご高配を賜 (過去最高) 望外の悦 一がもの

のも良いだろう。 について、じっくりと議論してみる ならばもう一度 るかどうかは解らないが、出来得る ならぬことを忘れてはならない。 我々の日常に於ける地道な活動に他 の成果を生かし発展させて行くのは、 漠然と受け流してはならないし、 る。 たして第四回 今回の 「帰敬会」の成果をただ 「帰敬会」が開催され 「帰敬会」とは何か 2 果





起点」であり「キッカケ」であ

### 他宗団見学 (霊友会)

- 伊豆の山々をながめて バスの旅-

高 麗 清 貴

ははしい景観でした。 その方角質 はなしい 景観でした その が 動 苦薩が安置されていました。 自然に囲まれた、静かな美しい景た。 自然に囲まれた、静かな美しい景た。 おもいました。 おもいました。 おもいました。 おもいました。 おもいました。 おもいました。 おもいました。

が当日はあいにく曇りで景観を見る ながら登って行きました。 訳の設備も備えられていました。 を望みながら食事が出来るそうです ことが出来ませんでした。 た庭をはさんで六角堂があり、 くつもの円卓があり、 通され、 に向かって、 と案内されました。 た後、長いトンネルを抜けて拝殿ルーム・宿泊所等を見学させて頂 べて椅子席になっており、 門卓があり、伊豆の島々精進料理を頂きました。 で、白い石で敷きつめられい備えられていました。 拝席になっており、同時通 所々残雪の景色を見 そしてミーティン 大きな建物で、 ム式



天城山を背に、

霊友会 自慢のドームの内部



霊友会の案内の方の説明を真剣に聞く参加者



帰路の途中、浄蓮の滝にて



ご覧の賑やかなサロンバスで行ってきました



「聚楽よ……」



「♪かごめ、かごめ♪」

# 水原道雄の



「アレ、始まっちゃたみたい」



「漁業協同組合の面々」

パート2



「本職です」



### 平成3年11月23日出 帰 敬 会

### 於 大本山光明寺食堂

昼食直前、帰敬会参加者の皆さんと 浄青会員が食前のことばを唱えている風景です。

### 全員注目!!

前会長は怒っています。 たのは私だけでしょうか。 とのでいます。

N先輩は良い人です。

 $\widehat{Z}$   $\widehat{N}$ 

CPの質に疑問を感じています。

にある本山のY・N先輩に編集委員にある本山の職員であり、この本山に入ったのもY・N先輩に言われて入ったのです。編集委員になると横浜の方の女性と仲良くなれる。いつでもお酒が飲めるといわれ、「そうなんですか。」と自分もついその気になって「やります。」と言ったのですが。」と自分もついその気になって「やります。」と言ったのですがこの「浄青神奈川」発行の編集委員会に始めて参加した時、文頭の言葉が頭の中をよぎったのです。 枚目の原稿を仕上げました。まだ、うまく出来ませんが序々にうまくなってもらいながら、どうにかっちまくなったのです。

編集後

記

107)